慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	多角化度と企業業績との関係 - 韓国の製造企業を対象に -
Sub Title	
Author	李知英(Ri, Chiei) 矢作恒雄(Yahagi, Tsuneo)
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1990
Jtitle	
Abstract	
Notes	複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	http://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001990-0806

No.806

学生氏名　李　知英

主査　矢作　恒雄
副査　嶋口　充輝
青井　倫一

所属　矢作　恒雄　研究室

多角化度と企業業績との関係
－韓国の製造企業を対象に－

企業経営において最も基本的に求められるのは常に新たな事業機会に目を向け企業成長を図ることである。市場自体が多様化している現在、企業の成長と収益の確保のために多角化は最も重要な経営課題であると共に企業生存のプロセスそのものである。そして今や日常の経営のプロセスになってきた。

本研究で対象とする韓国の場合も例外ではなく、環境変化に対応する持続的な成長戦略として活発に取り入れられているのである。

しかし、多角化戦略というのは、生産面や投資、経営管理の面でシナジー効果が期待されると共に環境変化に耐えて企業成長を図れるとはいえ、従来とは違う人的、物的資源の投入が要求されるため非常にリスキーであるともいえる。従って、ある企業がその事業の多角化を決定するとき、どの程度に異質の分野に事業展開するかのような重要な戦略的決定に迫られることになる。　そこで、特定の戦略に踏み切る時必要な経営資源が従来のそれとどの程度異質であるかという観点から多角化度を測定し、また多角化は経営成果にどの様な影響を与えるか明らかにするのが本研究の目的である。そして、韓国の製造業５７者を対象に実証研究を行い、その分析結果を基に、韓国の経営者に次のような提言が出来る。

韓国の場合、多角化戦略は成長戦略として優位である。しかし、短期的な視野からリスク回避戦略として採るのは非常に危険である。又、長期的視野にたち、戦略的重要性を考慮した経営評価が必要であろう。